

EX（絶滅）

コウチュウ目 オサムシ科

コゾノメクラチビゴミムシ

Rakantrechus elegans S. Uéno, 1960

カテゴリー判定基準：①

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
Ex	EX	EX

日本固有種

九州中央部に固有のサイカイメクラチビゴミムシ亜属に属する複眼および後翅の退化した地下性の種。大分県津久見市の石灰洞だけに分布していたが、1960年代の石灰岩の採掘により洞窟を包含する山自体が消失したために絶滅した。分布域を囲むように異所的に分布する近縁種の生息域があるため、新産地が見つかる可能性はない。

Rakantrechus elegans was collected only once in 1955 at a small limestone cave, at Tsukumi-shi in eastern Kyushu. It belongs to the subgenus *Paratrechiamia* and is readily recognized by the absence of the pronotal postangular setae. Unfortunately, the limestone hill, in which lay the type cave, was excavated in the 1960s, and the beetle became extinct. Since the limestone area was dry, this species is not expected to be able to survive in the upper hypogean zone of nearby places, particularly in light of the fact that the caves in the surrounding areas are occupied by several related species.

基礎情報

■**形態** 体長4.5～5.3mm。全体に光沢のある赤褐色で、触角や脚は色が淡い。体は比較的細長く、複眼および後翅は退化している。上翅の剛毛式は2+2（例外的に3+2）。前胸背板の後角毛を欠くことで、近縁種から容易に識別できる。

■**分布域** 大分県津久見市の小園の穴という小さな石灰洞だけに分布していた。本種を含むサイカイメクラチビゴミムシ亜属（*Paratrechiamia* 亜属）は、九州中央部に固有。

■**生息環境** 石灰岩の洞窟内の湿った場所に生息していた個体が確認されていた。同属には地下浅層に生息する種も知られている。

■**生活史** 他の小動物を捕食するものと考えられる。詳しい観察がなされる前に滅んでしまったため、他の事項に関する詳細はまったく分かっていない。

絶滅に至った経緯とその要因

石灰採掘による生息地の消失（17）。

特記事項

1955年に一度採集された11個体が得られたのが唯一の記録である。1960年代に実施された大規模な石灰岩の採掘によって、生息地の小山のすべてがなくなった。本種の分布域は、異所的に生息することが確実な別の3種の生息域に囲まれている。洞窟性のメクラチビゴミムシ類は、洞窟だけでなく、その周辺地域の地下浅層に生息している場合が多いが、本種の場合、洞窟を包含する山自体が消失し、しかもその跡地が乾燥しているため、地下浅層での残存がほとんど考えられない。

参考文献

Uéno, S.-I., 1960. A new species-group of the genus *Rakantrechus* (Coleoptera, Harpalidae). Mem. Coll. Sci. Univ., Kyoto, (B), 27 : 37-44.

上野俊一, 2006. コゾノメクラチビゴミムシ. 環境省自然環境局野生生物課（編）, 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-5 昆虫類, p. 30. 財団法人自然環境研究センター, 東京.

執筆者：岸本年郎（静岡県ふじのくに地球環境史ミュージアム 整備課）